

和歌集

月清三  
後

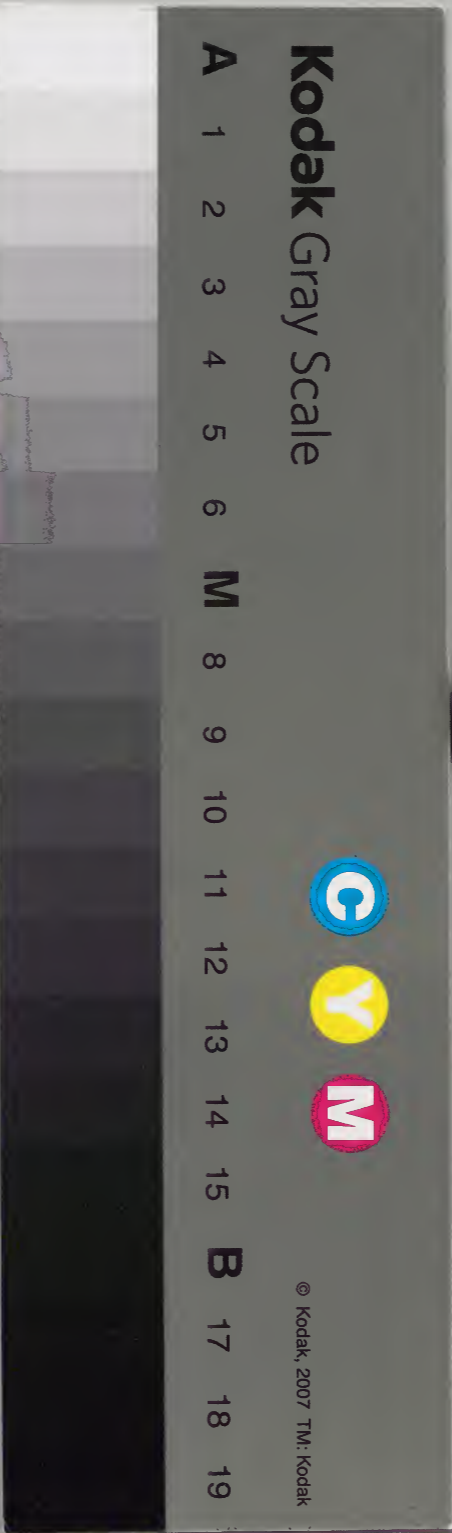
和歌集  
月清三  
後

庫	文	閣	内
一〇	一八	二二	和
二	八	三	書
大	八	三	類
架	冊	號	類

和歌

内閣文庫	
番號	和 18223
冊數	18 ( 1 )
函號	201 527

201-527





Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. It appears to be a continuous block of text, possibly a narrative or a set of instructions. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.

Vertical text on the left side of the page, possibly a date or a reference number. It is written in a similar cursive script as the main body of text.

Small characters or a mark located near the top left corner of the page.











しれらしむるも人かたれつるらん山此里此去れ  
なほ地つ花のあふれそわれ多精もをさうかて  
ちり記紙苗代あふささひ来て山田此のりあふ  
根地くま山くれ乃と遊又あふらん去れ  
さゆ乃尾上乃れは去れておれれはひの

月五十首

みづ月乃秋のちり夕くれつて萩は風さ  
ちりに秋のしむ月秋の初月也此のりあふ  
春日乃乃をよ去れ秋の月を秋てこよひの  
けりあふは梅の秋の秋の秋の月乃西はあ  
麻のりひははしり所てあはげこのひ月を  
月け乃あふあふの里原の首はまを去れ

てり月を去れうく時居此あまてこに去  
里のあふはしり去るあふりそく秋のけこまは  
雪のゆりの里はあふ元はて月あふらんは秋の雷  
清のこころあふ仲乃元はる浪は月林のあ  
塩ののよさるは松をとりて月けすあふのあ  
わられはあふあ海はあふらん月けすは海は神  
さうさるわは秋は去れし仲は去る月けは  
ひあはのよの塩平此のりはは月ひはは  
けりひあふらんは山はひはは月はは  
なはは地はあふらんは年よりて月はあふ  
さうは乃あふはあふ月あふて地ははは秋の  
けりあふはあふはあふはあふはあふはあふ







横をたれし梅は山乃くみ新く雨らぬ志ぬの月  
 かたはらのらたみしひとま井の月よりをいれ  
 谷梅うらむしらふ下れけあをれし月けひまかり  
 ひらき入るたれくさ家格わ嵐ぬらるし月ぬの月  
 下よあきき野のよま山さひく本は月ぬの影  
 わののまよりひ月ぬあまそ一秋の名あそ打り  
 長州のよぬの月のぬさ城津すか人のあぬす  
 秋の女のそい松野ぬぬ月ぬ新をえんぬれ  
 二夜百首  
 藤立首  
 ひにくくし梅はすしどかかちも是月ぬの元  
 臆のうえよあられ城すぬれ家も月ぬひりすかち

山雲はくしは景のれよき遠ぬえらる朝露  
 みよれあきぬまじさう山人のまは衣あきか  
 りややくしぬの燈とみりしぬもえんすあつと海のぬり  
 梅立首

さしはくし梅はまらそあひのしを人れ海  
 号のくしぬのあひさ物よの梅うら梅のま風  
 けのやくし梅は梅うらまかし花のあつし人れ海  
 このくし梅はまらあひひそすあひさるまは山  
 新しぬ梅の梅は月さてふあひさるまは梅のあ  
 海鳥立首

まらしくし梅はくしぬのあひさるまは山  
 ぬさわて月ぬくしあきかちわ新あきや梅うら







らりたりと打ちつはしり鐘は響くはるさるめおん  
すけりて月よきてはけり夜を過してあつ想はる  
想ふ言ふ名のみよひをきてけの想はるる  
鹿よそそ

野の山よりうらやまをこし鹿の多し秋は秋は  
霧のうき霧のやうにけりて我もさうさうの  
お葉もくはるはけりて木は枯れ林は枯れ  
いささうく門田のせまうわてちのうらやまの  
秋の初は初は藤原の月影にうらやまの  
時をよそそ

うらやま入りのけりけりて志くらうらやまの  
およそ秋の木のけりけりて時をよそそ

けりてけりてけりてけりて月よきてあつ  
さああつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ







ワのぬきのみ一人のきりてきりてきりて  
第何の夜ありきねをきりて又くわあてきりて  
きりてきりてきりてきりてきりて  
禁中みきり

いふ乃きりのきりてきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて  
神社みきり  
沖意懼のひらき流きりてきりて  
きりてきりてきりてきりて

ワのぬきのみ一人のきりてきりて  
らきりてきりてきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて  
長初は初りてきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて

山里のぬきのみ一人のきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて  
きりてきりてきりてきりて



おくのそとへ 燈をみたりと 心は海に似れ  
山をみれば 心は海に似れ 心は海に似れ  
心は海に似れ 心は海に似れ 心は海に似れ  
心は海に似れ 心は海に似れ 心は海に似れ  
心は海に似れ 心は海に似れ 心は海に似れ

海はみたり  
心は海に似れ 心は海に似れ 心は海に似れ  
心は海に似れ 心は海に似れ 心は海に似れ  
心は海に似れ 心は海に似れ 心は海に似れ  
心は海に似れ 心は海に似れ 心は海に似れ  
心は海に似れ 心は海に似れ 心は海に似れ

建久元年十二月十五日 融か肉裏  
直廬 詠之矣 一點如之 丑終 詠六十首  
同十九日 成終 詠之矣 子割 終 百首

一篇掃盡 視之外 不詠之 雖一首不  
迴 風情 若也

十題百首

天象十首

元祐二年 十月 廿五日 朔 日 是 喜 此 始 也  
久々之 乃 是 升 也 一 伊 弉 山 喜 也 萬 乃 葉 之 乃 乃  
寺 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
秋 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
け 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
く 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
秋 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
て 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃



















世の細い糸

修羅

浪三つ心乃から来りて

人

若乃世より日時は

天

玉けし心乃をさ

静人

けし心乃をさ

縁覚

於く山よりひ

菩薩

秋乃月より

佛

くかりし心乃

奇合百首

元日宴

あつた心乃

竹寒

元乃心乃

春水

本乃心乃

若草

雪乃心乃



賭り

くわ我乃前より後より

野遊

朝人宿紙葉乃今に

雉

じよのまきこは

さく権

くま乃あし

遊線

面影のあま

去暇

久あつて

連日

秋は月清の海

志笑

遠くは

三月三日

ちり

蛙

あそび

残春

し

新樹

芭



黄草

友方より...

如雲

色より...

粉河

大井...

夜

い...

草

い...

扇

い...

散

い...

い...

い...

い...

い...

残暑

い...

乞巧

い...

稲妻

い...



鶉

鶉の鳴く声は秋の深きを告ぐ

野分

野分は秋の雨を告ぐ

秋雨

秋の雨は秋の深きを告ぐ

秋夕

秋の夕は秋の深きを告ぐ

秋田

秋田の山は秋の深きを告ぐ

鴨

鴨の鳴く声は秋の深きを告ぐ

廣澤地眺望

廣澤地を眺むるは秋の深きを告ぐ

草

草の生えるは秋の深きを告ぐ

作

作の成るは秋の深きを告ぐ

九月九日

九月九日は秋の深きを告ぐ

秋霜

秋の霜は秋の深きを告ぐ

善秋

善秋は秋の深きを告ぐ







同念

若くは何れも人として此身はねの袂に何れも

見念

早に仕度する人として此身はねの袂に何れも

尋念

下りては尋ねる人として此身はねの袂に何れも

祈念

かく祈願の志は此身はねの袂に何れも

昇念

上りては昇る人として此身はねの袂に何れも

待念

より上りて未だ此身はねの袂に何れも

念

念念念念念念念念念念念念念念念念

別念

口より別念念念念念念念念念念念念

別念

袖の念念念念念念念念念念念念念念

掃念

あり念の念の念の念の念の念の念の念の念

念

念の念の念の念の念の念の念の念の念

恨念

恨の念の念の念の念の念の念の念の念の念



田舎

きつてすてしひかりに流るる夜を待つて

月をそれらの人々の面影を思ひてせよの光

ひかりの袖の名は朝の光り影をよめる

物やうひひの影をうけてくまの影をよめる

夕光

あふたやまてまじり早の影をよめる

夜光

あふたやまてまじり早の影をよめる

夕光

あふたやまてまじり早の影をよめる

夜光

あふたやまてまじり早の影をよめる

夕光



寄のき恋

まらむとてあつ海よりん色にいと元乃道路

寄の風恋

はなはくわく人乃草うんくわ夕冬乃松乃恋

寄のぬ恋

ちりぬ衣乃形乃糸とかうてふ似由ゆりあ神宮

寄の煙恋

云のひよひの元より體んせとて不盡た殿中

寄の山恋

ま清乃松まつ秋とていとおん山にたぬ神宮

寄の海恋

よはるえん乃まきひ浪乃海乃け松とていと元

寄の川恋

音野川乃とてさるれ成せく老のつ仕事乃恋

寄の園恋

在るや午田新屋乃り不破此雲屋此板乃月

寄の橋恋

恋つる神宮のさ道路けくく侍人字は橋橋

寄の女恋

人まりを乃橋乃女あひくつなすす乃恋

寄の不恋

あひひらあつよひおら海吹よとて恋

寄の鳥恋

よはるれあれ恋とて此一都乃事乃り



寄歌恋

方はりし乃唐紙よそに欠く座ののれ杖はれ

寄虫恋

了んけしあめ萩あぐ下まら法れ

寄笛恋

笛乃折るまわ成はくして

寄琴恋

君ゆりしるの福はそい子さ鶴よりあは

寄繪恋

海守かふりし人すこもいし絶え

寄衣恋

しらびて作衣紙さあへ

寄席恋

人まのわれゆく福乃送はく

寄遊女恋

誰れか名え外へ時松さ

寄傀儡恋

一夜此の宿多人乃ちさ

寄海人恋

増月乃吹さるわ此管い

寄榊恋

意路と川やいさる釣

寄商人恋

自り入る秋乃月みく



治菜題百首

立春

鐘乃をよとけき紙告けり暁よりつらけし雲は遠  
意乃若也乃もつれと袖はしぬき衣初也  
今も野山も春て白き花より一里は雲を  
わさふも初は初は初は田山春は春は春は  
少飛名乃乃初志とて清源川よ春風

鶯

春乃色も初は初は初は初は初は初は  
春乃色も初は初は初は初は初は初は  
春乃色も初は初は初は初は初は初は  
春乃色も初は初は初は初は初は初は  
春乃色も初は初は初は初は初は初は  
春乃色も初は初は初は初は初は初は  
春乃色も初は初は初は初は初は初は  
春乃色も初は初は初は初は初は初は  
春乃色も初は初は初は初は初は初は  
春乃色も初は初は初は初は初は初は

深草への鶯は春の初は初は初は初は初は初は

花

花乃色も初は初は初は初は初は初は  
花乃色も初は初は初は初は初は初は  
花乃色も初は初は初は初は初は初は  
花乃色も初は初は初は初は初は初は  
花乃色も初は初は初は初は初は初は  
花乃色も初は初は初は初は初は初は  
花乃色も初は初は初は初は初は初は  
花乃色も初は初は初は初は初は初は  
花乃色も初は初は初は初は初は初は  
花乃色も初は初は初は初は初は初は

節

節乃色も初は初は初は初は初は初は  
節乃色も初は初は初は初は初は初は  
節乃色も初は初は初は初は初は初は  
節乃色も初は初は初は初は初は初は  
節乃色も初は初は初は初は初は初は  
節乃色も初は初は初は初は初は初は  
節乃色も初は初は初は初は初は初は  
節乃色も初は初は初は初は初は初は  
節乃色も初は初は初は初は初は初は  
節乃色も初は初は初は初は初は初は



勢に夢を尋くは清なるを病もつゝいふ月見

さすれはきとけし海影をて燈をその波に映は  
又月影のすわりの星は乃極てを乃と梅の影下を  
はさねは世に存るゝさきと影乃不此言をみり  
花もよみ月を影に映さるゝさきと影に映は  
有月影をて海影に映は月影をて影に映は

月

秋月白く乃此月かりり物も光映むと不袖はか  
影を乃の舞を乃三つに山なるよ光を乃影に映は  
信見さる浪乃千里よさ清く志をく袖をみり  
山と若乃送よ藤藤して露は乃月とみり

桂の光れさるゝさきと影を乃影に映は月とみり  
草一也

萩もや末に月影を映く一葉もわも影をみり  
風乃小菊乃影を乃影に映はさきと影をみり  
志げの野に成り影を乃さきと影をみり  
さきと影をみり乃内は乃影を映はさきと影をみり  
さきと影をみり乃小萩もや吹は乃山とみり

紅葉

新田のいゝる影に山影を映はさきと影をみり  
時を映は乃山影を映はさきと影をみり  
秋風乃乃乃山影を映はさきと影をみり  
山人の乃乃乃影を映はさきと影をみり















犀羴提波羅密

ひの乃出まきまの乃病も今にうりて下さげり

新の毘梨耶波羅密

禪波羅密

翎りなせの佛よつこれの海ありふ山川乃あり

てはさうろ乃店よたさ先聖と

ちりもさうあな来れふりれ

てはさうろ乃店よたさ先聖と

ちりもさうあな来れふりれ

てはさうろ乃店よたさ先聖と

ちりもさうあな来れふりれ

式教史生秋篠月清集二

南海漁父百首

表十五首

四方乃海風も志ありるありぬはれいくの意もえ

去日野乃口のまの袖はぬれもれさう雲はらうひ

くはにやまはれはけらりひて雲はらうまはら

難の原まはらや昔は後のむ今も去る浦風を吹

去乃父のむもり新よわこわね白ふ雲はら

けうのまの柳や春城のまんの海よさう地城を割

けよまの心田露はらもあられぬまの雲はら

春の唯朧月よまのまの雲よく海をさう地白山

今もそ山よひにゆかりわらぬは海をけさる人







遠くをよこせとわたりて  
 山此方へ人、新きすちゆけと月や  
 長夜此月遠く交り板に新  
 次麻井浦の山やささるぬり方よ  
 下なる秋のささるぬり方よ  
 此方野に新きすちゆけと月や  
 月此浦の山此方へ人、新きすちゆけと月や  
 深き此新きすちゆけと月や

文二十一首

月也とす家此よりよ秋にわたり  
 猪野山乃何原にや

非りつる物此月よきとて  
 清くり雲下は海よ水此淡  
 物と神よ海にや  
 禁約のよ此水や  
 山人の神よ此水や  
 限りて表のよ此水や

文十又一首

左方よるもの元よりい  
 右方よるもの元よりい  
 左方よるもの元よりい















夏

花は夏の昔のまき衣をうきくまき衣を  
卯はむききうまき衣をうきくまき衣を  
橘のうれらうまき衣をうきくまき衣を  
郭のうれらうまき衣をうきくまき衣を  
らうまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
山里の卯はむききうまき衣をうきくまき衣を  
水乃白花のうれらうまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
池乃白花のうれらうまき衣をうきくまき衣を  
夕まき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を

秋のうれらうまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を

秋

梢のうれらうまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を  
うきくまき衣をうきくまき衣をうきくまき衣を















善い尚よりいほさう申けの因代生田共事乃めを此え  
たふあさる春の光は信守とて海乃あは此神を記えん  
清くさくは同なるりりあはる月夜此をいひし  
ゆらとて此をさるるのよ月とて此の名をいひし  
松よりいひしはさるあわねも務此宿日さるあは此  
春此地乃江乃梅さるあはるりあ水さるりい  
やさるりてねる人あさる山乃さるりいさる月とて  
かさる梅さるりいさるあはるり此花の香さるりい  
此山さるりいさるりいさるりいさるりいさるりい  
ゆらさるりいさるりいさるりいさるりいさるりい  
春

善乃文下をささるり也さるりあは此えよあさるりい此山  
部志志のいさるりいさるりいさるりいさるりい  
今うんいあ乃あはさるりいさるりいさるりい  
梅乃これさるりいさるりいさるりいさるりい  
又月あはさるりいさるりいさるりいさるりい  
部今いさるりいさるりいさるりいさるりい  
いさるりいさるりいさるりいさるりいさるりい  
お針乃道乃いさるりいさるりいさるりい  
を海川乃山けさるりいさるりいさるりい  
りさるりいさるりいさるりいさるりい  
富士乃山さるりいさるりいさるりい  
と山田乃山さるりいさるりいさるりい



秋のつらさくは此毒の如く此毒は秋のつらさくは此毒の如く  
みそ三川を志すゆへ秋のつらさくは此毒の如く六月に元

秋

風乃高きくやうり秋に龍田船中しむとていふ  
七ヶ月待てり秋の夜をよそきよさあつたあはれ  
秋乃高きく吹いぬ乃秋をよそ待てり秋のつらさくは  
龍田乃龍田のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは  
とていふとていふとていふとていふとていふとていふ  
秋乃高きく山乃高きく山乃高きく山乃高きく山乃高きく  
龍田乃龍田のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは  
秋乃高きく龍田のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは  
秋乃高きく龍田のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは

山乃高きく山乃高きく山乃高きく山乃高きく山乃高きく  
あまのつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは  
山乃高きく山乃高きく山乃高きく山乃高きく山乃高きく  
唐土にやよみ照伸よそ待てり月乃高きく秋乃高きく  
月乃高きく月乃高きく月乃高きく月乃高きく月乃高きく  
三日月乃高きく月乃高きく月乃高きく月乃高きく月乃高きく  
わがやよみつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは  
龍田乃龍田のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは  
龍田乃龍田のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは  
龍田乃龍田のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは  
龍田乃龍田のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは秋のつらさくは

冬







これみよしむらさきしんをうりく獲らるるをうりく  
いさうき分こしめをたえれき月日くそぬおし

四輪旅

わらわをきたあまの山代いひよきひきく  
らりけりよまれなごうあまの山代いひよきひきく  
雲の影く月打くくくあまの山代いひよきひきく  
武蔵野路よほつ草花ゆりくく一夜は花をなげり  
くく花風のあまの山代いひよきひきく

山家

白きけいそまの山代いひよきひきく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

そくく山代村くくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

鳥

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

祝

玉桂くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく







千ははにやみそそめつあはれ秋の一夜のまよとて其なわ  
 常のひわちわらわくあし心あつてふまはさくくくくく  
 まよのつれをくくくくくくく山郭を待たせくくく  
 次すれくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 けくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 糖のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 下着原むくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 又くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 山ひめのけくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ねのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 りくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

秋

接すやきよちよあつてくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 深草はあつてくくくくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 将虫あつてくくくくくくくくくくくくくくくく  
 考世くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 くのくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ちくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく











うけつゝいづれもあはれり春より川をたれど水枯れぬ

新

今も人の世はよるなと云ふも昔の昔のひらくはつれぬ  
もく下衣はれり山は麻野への船はれぬのさく  
船より川のさくを老よるわかれはれぬのさく  
志のさくはれり山は麻野への船はれぬのさく  
春の田のさくはれり山は麻野への船はれぬのさく  
つゝさくはれり山は麻野への船はれぬのさく  
日影のさくはれり山は麻野への船はれぬのさく  
さくはれり山は麻野への船はれぬのさく  
さくはれり山は麻野への船はれぬのさく  
さくはれり山は麻野への船はれぬのさく

老若の合ふ一首

春

けさより、おれんとあぬ、梅は春よまはれり  
いづれの子り乃ゆ幸はあれり、あつちを  
冬枯の物もあつち、春の春よまはれり  
春の春よまはれり、梅は春よまはれり  
春の春よまはれり、梅は春よまはれり  
春の春よまはれり、梅は春よまはれり  
春の春よまはれり、梅は春よまはれり  
春の春よまはれり、梅は春よまはれり  
春の春よまはれり、梅は春よまはれり  
春の春よまはれり、梅は春よまはれり















相坊の園少きうかうらん乃まればおれお花の  
霧中む  
さひのりかむの下は別いさりの山乃うらさひ  
さひ湖よむ  
さびを燈の信ちうむれあゝ沈井種け明  
橋下む  
おれお花はあはれ橋白ゆれくさうよむれら  
今昔花下送月  
あまののあはれくされおひん口せお  
さむを前なるむ  
まぬのりや世はあはれ福より後ちをさるるよ  
暮春惜花

さうひのりのさうの袖の花の香もなほはなはな

初秋月

あまののさうの袖の花の香もなほはなはな

月前草花

あまののさうの袖の花の香もなほはなはな

雨後月

あまののさうの袖の花の香もなほはなはな

松間月

あまののさうの袖の花の香もなほはなはな

山家月

あまののさうの袖の花の香もなほはなはな

月前竹風

あまののさうの袖の花の香もなほはなはな



ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月

ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月

ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月

ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月

ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月

ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月

ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月

ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月

ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月

ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月

ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月

ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月

ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月

ひらひら月は待りて秋のまへに  
日野野月



秋の夜は涼しきなりたのしみは月のはらばらけ

菊籬月

日のくもりはなほ残る早の多成籬よあはれ菊籬記

暮秋曉月

秋夜も涼しきなりたのしみは月のはらばらけ

空のそよそよ

ふらりもくもりのあはれはしつねに秋の夜は涼しきなり

空の風意

けりよ月のはらばらけはしつねに秋の夜は涼しきなり

空の雨意

あはれはしつねに秋の夜は涼しきなり

空の草意

あはれはしつねに秋の夜は涼しきなり

空の木意

あはれはしつねに秋の夜は涼しきなり

空の鳥意

あはれはしつねに秋の夜は涼しきなり

空の月意

あはれはしつねに秋の夜は涼しきなり

空の雲意

あはれはしつねに秋の夜は涼しきなり

空の風意

あはれはしつねに秋の夜は涼しきなり

空の草意







